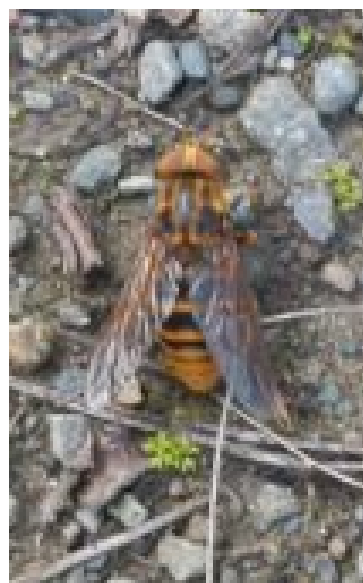


## アカウシアブ

8月1日の朝、澄川森林の駐車場をすぎて、坂を下る手前の行く手にアカウシアブがもがいているのに出会いました。日本のアブ科の中で一番でっかいので、一目でわかるのです。寄生虫か菌類にでも寄生されたのか、もがくばかりで飛ぶことができないのです。有難く画像をゲットしました。画像の記録は2015年8月1日9時23分でした。この固体は♀です。♂はずっと小さくてさほど目立ちません。人畜有害昆虫として、少年時代に川や池で水浴びをしているとき、しばしば襲われました。この時期草刈で汗まみれの我が仲間たちの周りを飛び回る不届き者がいますが、暑くても肌を露出しているのは顔だけのわれわれが被害されることはまずありません。ちよいと見にはスズメバチか?と驚かされます。スズメバチに擬態した警戒模様だと思っています。



ネットと比較した画像がありましたのでよくよくご覧ください。腹部の横縞がそっくりですね。無防備な裸でいる場面で、うるさく飛び回られるとき思わず手で掃うのに躊躇してしまうほどなので

す。吸血するのは♀で、♂はいたしません。吸血昆虫は概ね♀のみが遺伝子を引き継ぐ卵の成長に必要な栄養を人畜の血液から得るように神様から使命されているわけです。

放牧牛はこのアブを嫌っていて尻尾でしか対応できないので、それが届かないところで吸血されると大きなストレスになります。それがために採乳量が減って畜産家の悩みになるとのこと。幼虫

は水辺で育ち、餌はミミズやカワニナのような水性貝類その他昆虫で肉食性だとのこと。幼虫期間は3年。分布は日本全土。出現は6~9月です。

この日は前回泊りがけで焼いた炭窯をあけました。収量は上々でした。上から1段目はミズナラが混じっていますが、2段目以下はニセアカシヤです。炭として燃料にはしないで、澄川の沢に投入して水質浄化を目論むことといたします。ホタルばかりでなく、アカウシアブの棲息環境にも良い影響が期待できます。害虫ではありますが、生態系の一員です。絶滅させてはいけませんのであります。

